

ゲノム情報とケミカルバイオロジーを駆使した がん治療薬開発研究

山口 貴世志 先生

東京大学 医科学研究所 臨床ゲノム腫瘍学分野 准教授

日時 12月12日(金) 16:00 – 17:00

場所 がん進展制御研究所 4階会議室

タンパク質のアセチル化修飾は代表的なエピジェネティクス調節機構の1つである。ブロモドメインは、アセチル化されたリジン残基の認識に重要な役割を演じる機能領域であり、転写やクロマチンリモデリングなどのDNA依存的な細胞プロセスに関与する。本セミナーでは、ブロモドメインを標的とするがん治療薬開発の可能性について議論したい。また、ケミカルバイオロジー分野で有用な特殊シーケンス技術についても紹介したい。